

# 村雲の歴史と自然

## その3

「村雲の歴史と自然を歩くウォーク」  
 キングダムコースを開設するに当たって、各集落（リリーポイント）を中心に、書物や言い伝えから拾い出し、歴史と自然についてまとめて見ました。村雲を再発見し、いま住んでいる「ふるさと」に思いをはせながら歩くのも楽しいのではないだろうか？

### ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

下笹見南・北には古い地名が残っている。南下に入る右手に「にない山」という独立した山がある。伝説では昔神様（柳岩窓）がこの山と大宮の神奈備山とを荷なつて来てきて、どちらに住もうかと思案されたほどよく似ている。下南の吾妻、「清水」（清水が湧いて飲み水や耕作に役立った。）、「蟲生」（蟲は虫が三つ重なった字で虫が多く生れるの字義。東北西三方を山に囲まれ、陽を受ける土地で、乳母懐のようなどころの意か）などがある。

正面に豊林寺城址西面、ハケ尾山、さらに蟲生は緩い傾斜地に千枚田のような水田がひろがっており、アルペン的な景観が広がる。中間助成制度をうけてよく整備された棚田の風景が楽しめる。

笹見とは「篠女」（篠を以て舞う巫女、篠は清らか、聖らかなの意。）から訛つたのではない

か？またこの上笹見の入り口に、氏神「九頭女神社」があるがこの九頭女の神も大芋柳岩窓の神と同神と言われ、細女（天の細女の神と同じ女性神、細はかんざしの意味）が訛つたのではないか？（前掲「多紀郷土史考」より）  
 三岳修験道の盛んな時代には、三岳の理坊がここに立ち並び六ヶ寺もあつたが、没落し、いまは福住山多聞寺一寺が曹洞宗の寺として残っている。本堂からの眺めは絶景である。笹見の集落や多紀連山県立公園の四十八滝の滝山の巨岩、絶壁が一望できる。

四十八滝の入り口、百万石酒造の横には、聖観音立像（笹見観音）がある。丹波、播磨などの守護細川勝元の丹波守護代内藤則繁は、乱入してきた山名宗全の軍勢と戦い、村雲村笹見で全滅。この戦いを「丹波村雲合戦」と言うが、戦死者の供養と災除にこの合戦場跡に立像がたてられている。

村雲の自然はなんといいても「四十八滝」である。「笹見四十八滝」は多紀連山県立自然公園に含まれている。手洗いの滝、弁天滝、肩ヶ滝、長滝、シャレ滝、大滝、二の滝、一の滝と八つの滝があり、始終滝の水が流れているので「四十八滝」ともいわれている。日陰躑躅、一ツ葉、セッコク、のきしのぶなどの高山植物、山桜、紅葉、梅、樅などで四季折々に美しい。

「篠見四十八滝」は昭和54年県立自然公園に指定された年に、登山道等が整備されたが、あれから30年以上経っており、もう一度整備が必要となっている。

笹見から西の山の方にある山田は古くから山の谷に沿って山田と農家があつた。次いで小立垂水と続く。小立の村名は「叢雲御寮」といってた九条家の大館、小館があつたので小立としたという説もあるが、寛永十一年大立山長福寺が曾地より移ってきた。その下の集落ということ小立となつたのでは？（前掲「多紀郷土史考」）この長福寺は大芋小学校の旧二階建校舎を移築してリニューアルされており、曹洞宗の寺院としては珍しい伽藍である。

垂水から県守へ行く道に「鬼坂」という峠がある。峠はいつもきれいに清掃され、地藏仏には花が供えられている。この峠から車塚も近く歩いてみたい里道である。鬼坂にはいろいろなり言伝えや民話が残っている。

長福寺を上がつた所に、丘陵の南向きの斜面に横穴式石室をもつ10基の円墳が点在する。「岩井山古墳」と言われ、6世紀〜7世紀初め（古墳時代後期）大陸の古墳型式によりつくられた。特に、低い所にある3号墳は最も大きな規模で奥壁に長方形の石柵を設けた「柵付古墳」で、篠山市内ではここだけの珍しいものである。

### ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

#### ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

「笹見四十八滝」は昭和54年県立自然公園に指定された年に、登山道等が整備されたが、あれから30年以上経っており、もう一度整備が必要となっている。

笹見から西の山の方にある山田は古くから山の谷に沿って山田と農家があつた。次いで小立垂水と続く。小立の村名は「叢雲御寮」といってた九条家の大館、小館があつたので小立としたという説もあるが、寛永十一年大立山長福寺が曾地より移ってきた。その下の集落ということ小立となつたのでは？（前掲「多紀郷土史考」）この長福寺は大芋小学校の旧二階建校舎を移築してリニューアルされており、曹洞宗の寺院としては珍しい伽藍である。

垂水から県守へ行く道に「鬼坂」という峠がある。峠はいつもきれいに清掃され、地藏仏には花が供えられている。この峠から車塚も近く歩いてみたい里道である。鬼坂にはいろいろなり言伝えや民話が残っている。

長福寺を上がつた所に、丘陵の南向きの斜面に横穴式石室をもつ10基の円墳が点在する。「岩井山古墳」と言われ、6世紀〜7世紀初め（古墳時代後期）大陸の古墳型式によりつくられた。特に、低い所にある3号墳は最も大きな規模で奥壁に長方形の石柵を設けた「柵付古墳」で、篠山市内ではここだけの珍しいものである。

北条の山麓の緩やかな傾斜地に北条古墳（県指定史跡）がある。古墳時代中期（5世紀）の「車塚古墳」より少しあと、5世紀後半の一边30mの方墳である。円筒、家型、短甲型埴輪等が出土している。西に車塚古墳、姫塚古墳、東の岩井山古墳のほか多数の円墳があり、その関連が重要視されており、このあたりは、縄文・弥生時代より繁栄したことがうかがえる。

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

### ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

#### ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

「笹見四十八滝」は昭和54年県立自然公園に指定された年に、登山道等が整備されたが、あれから30年以上経っており、もう一度整備が必要となっている。

笹見から西の山の方にある山田は古くから山の谷に沿って山田と農家があつた。次いで小立垂水と続く。小立の村名は「叢雲御寮」といってた九条家の大館、小館があつたので小立としたという説もあるが、寛永十一年大立山長福寺が曾地より移ってきた。その下の集落ということ小立となつたのでは？（前掲「多紀郷土史考」）この長福寺は大芋小学校の旧二階建校舎を移築してリニューアルされており、曹洞宗の寺院としては珍しい伽藍である。

垂水から県守へ行く道に「鬼坂」という峠がある。峠はいつもきれいに清掃され、地藏仏には花が供えられている。この峠から車塚も近く歩いてみたい里道である。鬼坂にはいろいろなり言伝えや民話が残っている。

長福寺を上がつた所に、丘陵の南向きの斜面に横穴式石室をもつ10基の円墳が点在する。「岩井山古墳」と言われ、6世紀〜7世紀初め（古墳時代後期）大陸の古墳型式によりつくられた。特に、低い所にある3号墳は最も大きな規模で奥壁に長方形の石柵を設けた「柵付古墳」で、篠山市内ではここだけの珍しいものである。

北条の山麓の緩やかな傾斜地に北条古墳（県指定史跡）がある。古墳時代中期（5世紀）の「車塚古墳」より少しあと、5世紀後半の一边30mの方墳である。円筒、家型、短甲型埴輪等が出土している。西に車塚古墳、姫塚古墳、東の岩井山古墳のほか多数の円墳があり、その関連が重要視されており、このあたりは、縄文・弥生時代より繁栄したことがうかがえる。

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

### ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

#### ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

「笹見四十八滝」は昭和54年県立自然公園に指定された年に、登山道等が整備されたが、あれから30年以上経っており、もう一度整備が必要となっている。

笹見から西の山の方にある山田は古くから山の谷に沿って山田と農家があつた。次いで小立垂水と続く。小立の村名は「叢雲御寮」といってた九条家の大館、小館があつたので小立としたという説もあるが、寛永十一年大立山長福寺が曾地より移ってきた。その下の集落ということ小立となつたのでは？（前掲「多紀郷土史考」）この長福寺は大芋小学校の旧二階建校舎を移築してリニューアルされており、曹洞宗の寺院としては珍しい伽藍である。

垂水から県守へ行く道に「鬼坂」という峠がある。峠はいつもきれいに清掃され、地藏仏には花が供えられている。この峠から車塚も近く歩いてみたい里道である。鬼坂にはいろいろなり言伝えや民話が残っている。

長福寺を上がつた所に、丘陵の南向きの斜面に横穴式石室をもつ10基の円墳が点在する。「岩井山古墳」と言われ、6世紀〜7世紀初め（古墳時代後期）大陸の古墳型式によりつくられた。特に、低い所にある3号墳は最も大きな規模で奥壁に長方形の石柵を設けた「柵付古墳」で、篠山市内ではここだけの珍しいものである。

北条の山麓の緩やかな傾斜地に北条古墳（県指定史跡）がある。古墳時代中期（5世紀）の「車塚古墳」より少しあと、5世紀後半の一边30mの方墳である。円筒、家型、短甲型埴輪等が出土している。西に車塚古墳、姫塚古墳、東の岩井山古墳のほか多数の円墳があり、その関連が重要視されており、このあたりは、縄文・弥生時代より繁栄したことがうかがえる。

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳

北条古墳